

日本の海岸線を歩く会 報告書

2022年 01月 21日

報告者 : 友松知宏

1. 計画の概要

ブロック名	九州
歩行区間	スタート地点 : 鹿児島県上川内駅 (オレンジ鉄道) ゴール地点 : 鹿児島県南さつま市坊津 (歴史資料センター輝津館)
実施期間	令和 3年 09月 16日 (木) ~ 09月 21日 (火)
概算歩行距離	105.8 Km
1人当費用概算	97,950_

2. メンバー表

	役割分担	氏名 (年齢)	期	その他
1	リーダー・記録	友松知宏 (81才)	8期	090-7774-8559
2	会計	友松和子 (82才)	友松妻	
3	保護者	植田洋子 (51才)	友松長女	大阪

3. 歩行概要

月日	出発地~	到着地	距離	歩行者	備考 (宿泊)
1 9/16日	米子 17:26=やくも 26=岡山=さくら 571=22:07 川内			知・和	東横イン
2 17日	川内 07:59=オレンジ鉄道=08:02 上川内~つたや		3.0	和子	
	川内駅 08:40=(レンタカー)=08:50 つたや(和と合流)			知宏	ニッポンレンタカー
	つたや 09:00~神村学園~17:40 味処正ちゃん=川内駅		33.6	知・和	東横イン
	新大阪 18:18=さくら 569=19:47 広島(泊)		-	洋子	
3 18日	広島 06:43=さくら 401=09:21 川内⇒(合流)		-	洋子	
	川内駅 09:40=10:40 南風ベジファーム見学 12:00=12:30 味処正ちゃん~15:10 特攻平和祈念館(見学) ~18:00 笠沙小学校=坊津町秋目(泊)		31.6	知、和、洋	がんじん荘
4 19日	高崎鼻 07:50~公衆トイレ~08:50 笠沙小学校		4.8	洋、知	
	高崎鼻 07:50~10:45 笠沙美術館・焼酎伝承館(見学) 11:50~13:24 鑑真記念館~16:20 坊津歴史資料センター=指宿		32.8	知、和、洋	休暇村指宿
5 20日	休暇村指宿 08:10=魚見岳=10:20 開聞山麓自然公園(見学) =11:15 香料園(見学)=指宿=14:50 鹿児島中央駅(解散)			知、和、洋	和子、洋子は帰宅
	=薩摩川内=18:00 日奈久温泉			知宏	新浜旅館
6 21日	日奈久 08:30=天草島(天草四郎記念館)=16:30 新八代/ニッポンレンタカー(車返却) 16:50=さくら 566=岡山=やくも 27=22:15 伯耆大山=帰宅			知宏	

4、地図



5、歩行詳細

概略

2日目に大阪の洋子が合流し、JR 西大山駅まで歩く予定であったが、台風14号が福岡に上陸し、新幹線が止まってしまうというハプニングがあり、1日遅れ、3日目朝に合流。大幅な

計画変更となり、40Kmを残した。

レンタカー併用。3人が運転を交代し、他の二人が別々に歩き、歩き終わった者を回収するため、もと来た道に戻るなど、動きが複雑になるので、本稿では歩行部分だけを報告する。9月20日に鹿児島中央駅で解散した後、友松は6月に世話になった熊本県八代の日奈久温泉に一泊し、天草島の天草四郎記念館に寄り、新八代から九州新幹線に乗って帰宅した。

9月16日 曇り

米子発 17:26 = (やくも 26) = 岡山=九州新幹線(さくら 571) = 22:07 川内着
東横イン(泊)

9月17日 曇り

和) 川内 07:59=オレンジ鉄道=08:02 上川内~川内駅前~
09:10 川内駅前つたや駐車場で合流/3.0Km
知) 川内駅前のニッポン・レンタカーでトヨタ・ヴィッツを
借り、09:10 つたやで和子と合流
知) 09:20~隅城バイパス~10:40 セブンイレブン/3.5Km
和) 09:30~木場茶屋~10:50 金山峠/4.0Km
知) 10:40~金山公民館~11:40 ラーメン時計台/3.0Km



川内駅西

口

和) 11:00~串木野市役所~12:00 麵処さつまに集合、昼食/3.5Km



麵(うどん、そば、ラーメン)の店であるが、鯖の寿司もあり、うどんと寿司のセットを注文。酢締めではなく、生の鯖の握り寿司。初めての味。旨かった。

知) 13:00~神村学園~14:30 原口自動車/4.0Km

神村学園は「個性教育」を教育方針とし、小・中・高の一貫教育で知られた有名校。進学と部活動を両立させ、地域では軟式野球が強い。

中継点の原口自動車が見つからず、市来小学校を過ぎたあたりで、来た道に戻るが見当たらず、社名が違うが、自動車



神村学

園

修理工場で訊ねると、トラックに押し込まれ1キロほど先の原口自動車に案内された。敷地

内

にヴィッツがあるのを確認。工場に戻ってもらい、再び歩きだし、中継地に到着。

和) 原口自動車 13:15~えぐち家~15:00 海浜公園円型塔/3.5Km

県道270号は2.5Km地点で、旅館えぐち家を巻いて漁港へ下りなければならないが、道が分からず、えぐち家前で停滞していると、目の前をヴィッツが通過。来合わせた軽トラを止め、追いかけて江口漁港で追いついた。えぐち家前に戻って歩きなおし、15:00 漁港前の海浜公園の中央にある、15mほどの円型の塔に到着。



- 知) 14:50~チェリー G コース~16:10 永山バス停/3.5Km
歩道は切り立った断崖下にあり、所々、崖崩れして危険なので、
車道の海側を歩く。
台風14号接近で海が荒れ、時々、頭からしぶきを被る。
- 和) 16:00~神之川~16:50 嘉之助蒸留所/3.1Km
- 知) 16:40~伊勢神社~17:20 日置川/2.4Km
- 和) 17:10~17:40 山下モーターズ/1.6Km
- 知) 17:35~18:20 味処正ちゃん (集合) /1.5Km
ここで今日の前定は終わったが、翌日の南風ベジファームが心配で、道を下見する。
地図とカーナビが合わないところがあり、何度か迷った末にファームに辿り着き、県道を迂

回

して19:30 東横インに戻る。

洋子) 新大阪 18:18=山陽新幹線さくら 569=19:47 広島(泊)

9月18日 晴れ

洋子) 広島 06:43=さくら 401=09:21 川内駅。

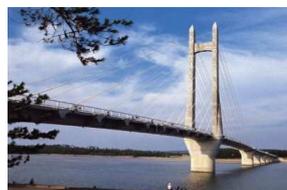
三人) 川内駅 09:40=10:40 南風ベジファーム見学 12:00=12:30 味処正ちゃん隣のうどん屋。
約束の40分遅れで南風ベジファーム到着。社長の秦泉寺さんに施設を案内して頂いた。
南風ベジファームは就労支援事業所(障害者作業所)であるが、会社組織にしており、一般
にある廃民家などを借りて、数人で下請け作業をしている小規模作業所と違い、広い農地や
立派な工場をもち、独自の商品を開発し、スーパーなどへ卸している。



南風ベジファーム

12:20 昨日の終点味処正ちゃんに戻るが本日休業。やむをえず、隣のうどん屋に入る。

- 知) 12:40~ふきあげタウン~13:30 花熟果北バス停/3.0Km。
- 和) 13:00~吹上浜公園~13:50 今田公民館/2.8Km
- 洋) 13:30~西原バス停~14:05 吹上肥料センター/2.7Km
- 知) 13:40~京田~14:20 桜井酒造/2.4Km
- 和) 14:10~グリンドーム~15:00 ベジファーム前/2.7Km
- 洋) 14:45~吹上海浜公園~15:20 特攻平和祈念館/3.0Km
全員集合し記念館見学。



吹上サンセットブリッジ

吹上海浜公園をゆっくり散策する予定であったが、道に迷って遅くなり、吹上サンセットブリッジを車は通れないので、公園は洋子一人が歩き、県

道

を迂回して、対岸の特攻平和祈念館で合流。記念館を見学。



祈念館がある加世田萬世は、
知覧と同じく、特別攻撃隊
が出撃する飛行場があった
場所で、祈念館には、海底
に沈んでいた特攻機が引き
上げられ、修復されたものが展示されている。

萬世特攻平和祈念館（館内撮影は自由）

洋) 16:00~16:50 えぼの証人館（加世田高橋）/2.5Km

知) 16:10~17:00 阿久根医院/2.6Km

和) 16:20~17:20 くじら館/2.4Km

洋) 17:00~17:40 大海干拓入口/2.7Km

和) 17:20~へご自生地南限~18:10 笠沙赤生木/2.7Km

洋) 18:09~笠沙簡易局~18:23 王林/1.5Km

和) 17:45~18:00 笠沙小学校/0.7Km → がんじん荘（泊）

遅くなったので、笠沙小学校で本日の歩行を終え、民宿がんじん荘へ移動。

がんじん荘は人気の船宿で、予約が難しいが、早くに予約したので泊まることができた。

味噌汁のどんぶりから、大団扇のような蟹だか海老だか？をぶち割ったのがはみ出していた。



がんじん荘

4月19日 曇り⇒晴れ

3人) がんじん荘 06:30=笠沙美術館=07:50 高崎鼻展望台

洋) 08:00~08:30 公衆トイレ/2.6Km

知) 08:10~片浦局~08:50 笠沙小学校/2.2Km（洋子合流）
=08:30 小崎納骨堂

和) 高崎鼻展望台 07:59~08:35 小崎納骨堂/3.5Km

知) 納骨堂(和・洋)09:00=09:20 片瀬（和を下ろす）=
09:30 赤生木空き地（洋を下ろす）=納骨堂（和を拾う）

和) 赤生木 09:25~笠沙恵比寿~10:30 小崎納骨堂/3.0Km

洋) 赤生木 09:31~一軒家~10:20 笠沙美術館/3.7Km

知) 赤生木=笠沙恵比寿=小崎納骨堂（和子を拾う）=10:45 笠沙美術館・杜氏の里笠沙見学



小崎納骨堂

笠沙美術館は黒瀬展望美術館とも言い、東シナ海を見下ろす高台にある。展望が抜群で、地元作家で安田火災美術財団奨励賞優秀賞受賞などの黒道則氏の作品が展示されていた。写実であるが、都会センスのアート画

で、へき地とも言えるこの場所で、このような絵にお目にかかるのは驚きであった。

道を隔てた隣の杜氏の里笠沙（焼酎伝承館）を見学。



笠沙美術館（黒瀬展望美術館）

杜氏の里笠

沙

- 知) 笠沙美術館 11:40~12:15 唐浦三差路/2.8km
- 洋) 11:50~12:30 正面岬/3.1Km
- 和) 12:10~がんじん荘~12:40 鑑真記念館。全員集合、見学。/1.2Km

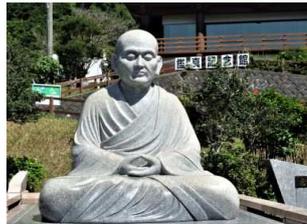
途中、木場商店で昼食を買い込む予定であったが、店が閉まっていたので買えず、が

ん

ん荘で昼はしていないので、鑑真記念館の休憩所でコーヒーを出してもらい、前夜の食事の残りで作ったにぎり飯などありあわせです。

唐の高僧で奈良唐招提寺の開祖である鑑真は、聖武天皇の招きで日本に渡航しようとしたが、5度の渡航に失敗。度重なる困難の末、両目を失明。753年、秋目海岸に上陸し、日本に仏教の戒律や薬学の知識などを伝えた。

鑑真の功績を讃え、平成4年に記念館を建立。



鑑真和上像/記念館前

- 洋) 13:10~今藤峠 (170m) ~14:20 今岳集会場/6.0Km
- 和) 13:30~14:10 仁田川営農研修場/3.2Km
- 知) 14:00~15:00 丸木崎キャンプ場/3.0Km
- 洋) 14:52~丸木崎トンネル~16:15 エネオス/2.3Km
- 和) 16:15~16:30 歴史資料センター輝津館/1.0Km



輝津館を見学する予定であったが、閉館。本日の宿泊予定の国民休暇村揖宿に向かう。車の正面に開聞岳が見える。18:00 休暇村に到着。さっそく砂蒸し風呂に入る。



開聞岳

友松 知宏 2024-01-18 13:46

皿

コメント[友松 1]:

4月20日 晴れ

休暇村揖宿 08:10=08:40 魚見岳 (200m) / 周囲の景色観光

昨日、桜島が5年ぶりに噴火したとのことで一夜明けた今も噴煙が上がっている。我々の来島を歓迎してくれたらいい。



桜島

魚見岳から 360 度の展望。
眼下に知林島が見える。
島との間に、砂州が白く透
けており、干潮時に海面か
ら現われ、島に歩いて渡る
ことができる。若い人たち
には、ここを一緒に渡れば
結ばれるという恋の信仰があり、人気のスポットである。



休暇村指宿



知林島

09:10=10:20 開聞山麓自然公園(見学)

敷地が广大で、歩いては観れないので、車で回遊する。園内には日本在来種で県の天然記念物に指定されている「トカラ馬」が放し飼いにされ、触れることもできる。



開聞山麓自然公園

11:15 開聞山麓香料園(見学)11:40=13:00 指宿



開聞山麓香料園

モ
を
が、

1941 年から続く「日本で最初のハーブ農園」。芳樟（ほうしょう / ホウショウ）をはじめレ
ングラスやローズマリーなどの精油（エッセンシャルオイル）を抽出したり、ハーブティー
を製造。毎年、多くの人を訪れ、手塚 治虫の色紙があり、小学校のクラスの委員長の大浦君

アトムやお茶の水博士を描いていたのを思い出した。=14:50 鹿児島中央駅（解散）

知）=薩摩川内=19:00 日奈久温泉／新浜旅館（泊）

9月21日 晴れ

08:30=天草島（天草四郎記念館）=16:30 新八代／ニッポンレンタカー（車返却）

16:50=さくら 566=岡山=やくも 27=22:15 伯耆大山=帰宅

天草四郎記念館



伯伝説と謎に包まれた16歳の少年・天草四郎を中心に
繰り広げられた「島原の戦い=天草一揆」の歴史的背景
を紹介している。

建物の外観は、白い聖衣を纏った、マリア像を模してい
るように見える。

6、費用（一人分）

交通費	38,723_
レンタカー	20,105_
宿泊費	31,446_
飲食費（昼食等）	4,023_
観光費（入場料）	680_
雑費	2,973_
合計	97,950_+

6、感想（洋子）

父と母のライフワークである「歩く会」の旅に、今回初めて同行した。

鹿児島島の川内を出発し、海岸線に沿って歩く旅では、東シナ海に沈む夕日や鹿児島湾に登
る朝日に心奪われ、アップダウンして入り組んだ地形に大地を感じた。

その昔、鑑真和尚がたどり着いた港から見える水平線はとても穏やかだった。

遠い土地鹿児島が、今回の旅で、私の体の一部になったような感覚を得た。それはきっと、
自分のこの足を、前に前に、ひたすら歩ききった旅だったからこそそのものだと感じる。

一見、非効率に思われる「歩くと言うこと」が、実は本物の体験につながるのではと思わ

さ

れた二泊三日の旅であった。

この素敵な旅に同行させてくれた、父と母に感謝したい。

以上